

## 児童作文に描かれる母親と父親についての一考察

加藤 恵梨

国際連合による「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 5 に「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」ことが設定され、ジェンダーにおける平等を実現すべく、学校教育においてもジェンダー平等に関する内容が組み込まれるようになった。具体的には、「子どもたちは、教科書の中に描かれたジェンダーを疑いもなく吸収していく」(牛山2014: 91) ことから、教科書がジェンダー構造の再生産機能を果たしていることが問題視され、ジェンダーに関する「隠れたカリキュラム」の見直しが行われている。例えば、2015年検定の中学校国語科教科書における性別役割の描かれ方についての研究では、従来指摘されてきた性別役割分業の「男(父) = 仕事・外」「女(母) = 家事・内」という構図から変化し、「家事も、仕事も」する母親像や、「力強さ」や「頼りがい」といった従来の男性ジェンダーイメージではなく、「悩める父親像」を描いていることが明らかにされている(中村2020: 85-84)。さらに、『東京新聞』(2024年3月22日)によると、2025年度から中学校で使用される教科書には、LGBTQ など性の多様性についての記述が増え、登場する科目も広がった。現行の学習指導要領は性の多様性に触れていないが、教科書会社は2025年度から使用される教科書に時代の流れや学校現場の声を随所に盛り込んでおり、その結果、性の多様性についての記述は、4年前の前回検定時の6教科16点から、8教科26点に増えた。家族についても、開隆堂出版は、さまざまな家族・家庭を学ぶ章で参考図書として、性的少数者の家族を取り上げた絵本「ふたりママの家で」などを初めて紹介している。

このように、「隠れたカリキュラム」を解消し性別にとらわれない生き方を

めざす「ジェンダー・フリー教育」の取り組みもみられるようになったものの、教師の側の意識改革だけでは解消されえないジェンダー構築や、ジェンダー・フリーへ向けた教師の働きかけを無効化するメカニズムがあることが多賀（2003）で指摘されている。具体的には、児童や保護者のジェンダー化されたリアリティのもとでは、教師たちは、自らの意識の持ち方とはかかわりなく「女」「男」として現前せざるをえず、それによって要請される職務の遂行が困難になったり、職務と性役割との葛藤に陥ったりすること、また、児童の「性別にとらわれない」「自分らしい」選択を促す働きかけにおいて、教師は、「自分らしい」状態の見極めや、家族のあり方を否定できないことに困難を感じているという点である（多賀2003：75）。特に家族は、児童にとって最も「重要な他者」であり第一義的な「準拠集団」であるため、教師にとって、マスメディアを批判したり、他の児童の言動に変更を求めると同じように児童の家族のあり方を批判し、それに介入することは難しいといわれている。その理由として、男女平等教育に対する保護者の理解が必ずしも得られていないこと、男女平等教育に対する保護者の理解が必ずしも得られていないことがあげられている（多賀2003：74）。

そのような状況で、児童の目には母親あるいは父親はどのようにうつっているのだろうか。そこで本研究では、児童作文にみられる母親および父親像について考察することを目的とする。調査資料とするのは、愛知教育大学附属岡崎小学校が発行している児童文集（2019年度から2023年度の5年分）の中の生活作文、1年生38編、2年生31編、3年生29編、4年生16編、5年生10編、6年生21編の全145編である。

各学年の作文において、「家族の役割について記述されている作文数」と「家族の固定的役割の記述がみられる作文数」をまとめたものが次の表1である。

表1のように、児童の作文には両親や祖父母の固定的な役割が記述されていた。特に、母親については、次の（1）のように家事や育児をする、（2）のように平日家にいる、（3）のように学校行事に参加するという姿が描かれていた。

- （1） わたしは、おかあさんと おばあちゃんの てつだいを しました。

表1 各学年における家族の役割についての記述数

| 学年 | 全作文数 | 家族の役割について記述されている作文数 | 家族の固定的役割の記述がみられる作文数 |
|----|------|---------------------|---------------------|
| 1  | 38   | 18                  | 18                  |
| 2  | 31   | 9                   | 8                   |
| 3  | 29   | 13                  | 12                  |
| 4  | 16   | 7                   | 5                   |
| 5  | 10   | 5                   | 4                   |
| 6  | 21   | 5                   | 4                   |

なにを てつだったかという、よるごはんを つくるのを てつだいました。ほかには、せんたくものを ほしたり、はこんだり、たたんだり、いろいろなことを てつだいました。

(「おてつだい」、1年生、72号)

(2) いえが 見えてきたら、なみだが 出てきた。

「ママあ、 ママあ。」

おもいきり さげんだ。 あわてて ママが 出てきた。

(「おおきな わすれもの」、1年生、72号)

(3) ぼくは、四月から ふぞく小学校の 一年生に になりました。入学しきは おかあさんと いきました。

(「かっこいい 一年生に になりたいな」、1年生、72号)

一方、父親については、次の(4)のように外で働く、(5)のように平日は家にいない、(6)のように外でアクティビティーをするといった姿が記述されていた。

(4) お父さんは、毎日ほたらいてくれて、すごく感しゃの気持ちでいっぱいです。 (「子どもマルシェで学んだこと」、3年生、73号)

(5) いつも お父さんが いないけど、今日は みんなで ごはんを 食べれたので 楽しかったです。

(「お父さんの たん生日」、2年生、72号)

